

2017年5月期 決算説明会

2017年8月4日(金)

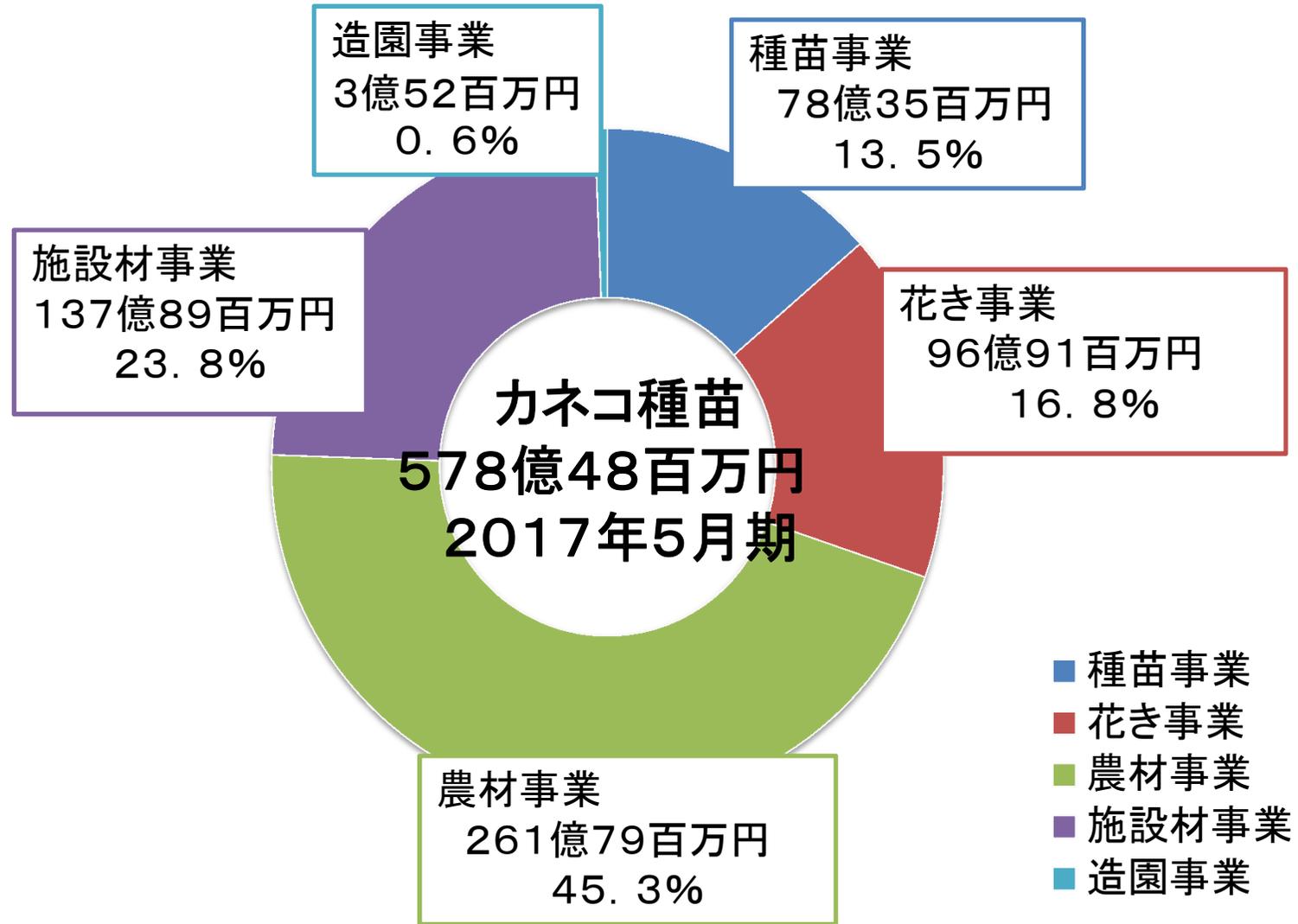


<http://www.kanekoseeds.jp/>

証券コード: 1376

決算概況

連結売上のセグメント別構成比



決算ハイライト

【売上高】

- ・578億48百万円(前年同期比0.4%減)
- ・種苗事業や農材事業が順調に推移したものの、施設材事業が低調に終わり減収

【営業利益】

- ・20億15百万円(前年同期比6.0%減)
- ・売上高の減少に加え、人員増による人件費の増加等により営業利益が減少

【経常利益】

- ・21億16百万円(前年同期比7.2%減)
- ・営業利益の減少に伴い経常利益も減少

【親会社株主に帰属する当期純利益】

- ・14億89百万円(前年同期比1.6%増)
- ・投資有価証券売却益の計上や法人税率引下げの影響などから増益となりました。

連結損益計算書

(単位:百万円)

	15/5月期	16/5月期	17/5月期	前期比
売上高	58,781	58,099	57,848	△251
営業利益	2,143	2,144	2,015	△129
(営業利益率)	(3.6%)	(3.7%)	(3.5%)	—
経常利益	2,274	2,281	2,116	△165
(経常利益率)	(3.9%)	(3.9%)	(3.7%)	—
親会社株主に帰属する当期純利益	1,366	1,465	1,489	+23
(親会社株主に帰属する当期純利益率)	(2.3%)	(2.5%)	(2.6%)	—
1株当たり純利益(円)	116.39	124.83	126.86	+2.03

連結貸借対照表

(単位:百万円)

	15/5月期	16/5月期	17/5月期	増減
流動資産	35,817	34,909	35,156	247
固定資産	8,270	8,277	8,212	△65
資産合計	44,088	43,186	43,369	182
流動負債	27,192	25,077	23,806	△1,271
固定負債	1,451	1,911	1,876	△34
負債合計	28,644	26,988	25,683	△1,305
純資産合計	15,443	16,198	17,686	+1,487
負債純資産合計	44,088	43,186	43,369	182
自己資本比率	35.0%	37.5%	40.8%	+3.3%

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	15/5月期	16/5月期	17/5月期
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,268	2,342	1,705
投資活動によるキャッシュ・フロー	△215	△208	△27
財務活動によるキャッシュ・フロー	△695	△607	△1,264
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	—	△7
現金及び現金同等物の増減額	356	1,526	405
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	—	71
現金及び現金同等物の期末残高	2,365	3,891	4,369

営業活動によるキャッシュ・フロー	仕入債務(4億34百万円)が減少したことや法人税等(7億31百万円)を支払うなどで資金を使用したものの、税金等調整前当期純利益(22億7百万円)の計上及び、たな卸資産(5億52百万円)が減少したことなどにより資金を獲得したことや、減価償却費(2億24百万円)を計上したことなどにより、17億5百万円の資金を獲得いたしました。
投資活動によるキャッシュ・フロー	投資有価証券の売却(1億17百万円)により資金を獲得したものの、有形固定資産の取得による支出(1億80百万円)などにより27百万円の資金を使用いたしました。
財務活動によるキャッシュ・フロー	配当金の支払及び短期借入金の返済などにより12億64百万円の資金を使用いたしました。

セグメント別業績

セグメント別主要取扱商品

■ 種苗事業

野菜種子

牧草種子

ウイルスフリー種苗

■ 花き事業

花苗・家庭菜園用野菜苗

球根・花種子

家庭園芸用資材

■ 農材事業

農薬

被覆肥料

■ 施設材事業

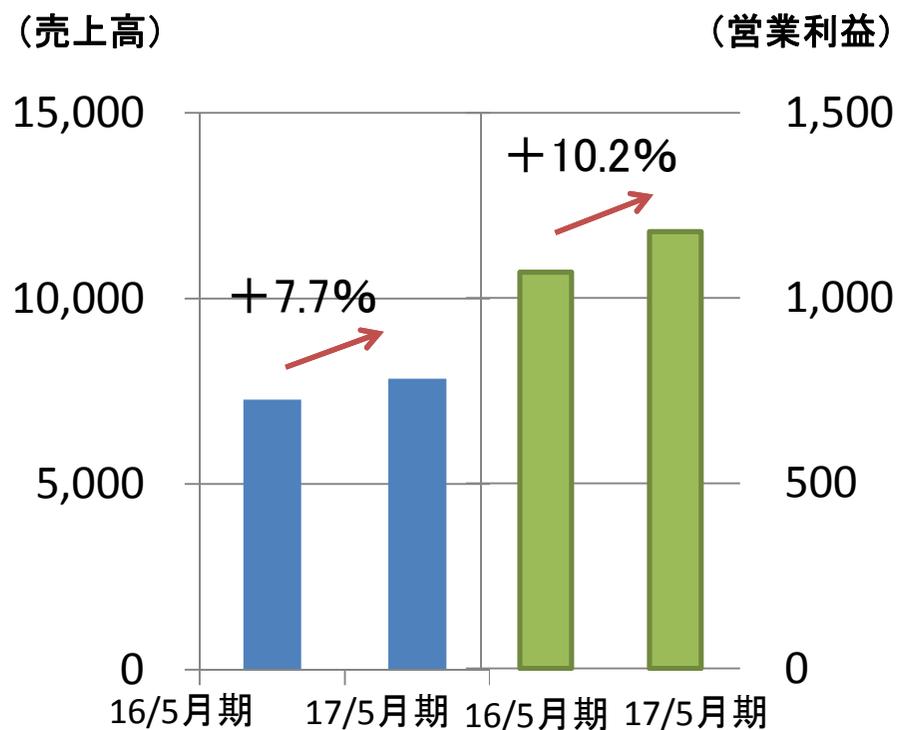
農業資材

温室・養液栽培システム

■ 造園事業

造園・法面工事

種苗事業



(単位:百万円)

	16/5月期	17/5月期	増減率
売上高	7,274	7,835	7.7%
営業利益	1,070	1,179	10.2%

【セグメント事業内容】

野菜種子や牧草種子、ウイルスフリー苗及び種イモの委託生産・仕入・販売を行っております。

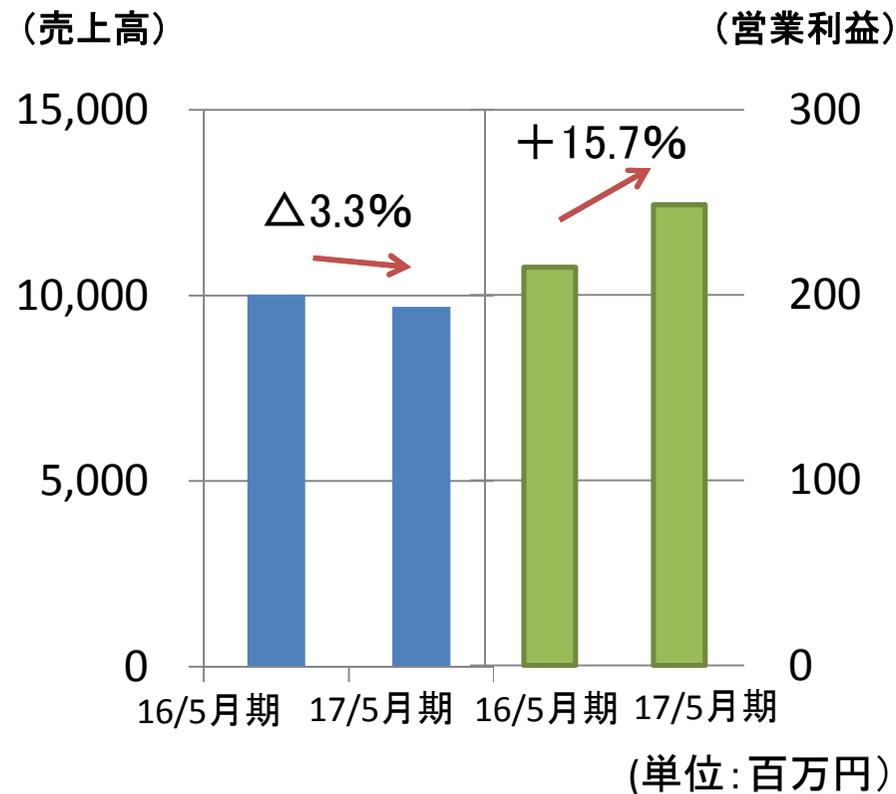
【業績】

売上高78億35百万円
前年同期比7.7%増加
営業利益11億79百万円
前年同期比10.2%増加

主な増加要因

- ・ 野菜種子関係では、輸出は増加し、国内販売は微増
- ・ 輸出では、欧米向けカボチャ、東南アジア向けチンゲンサイの需要が旺盛
- ・ 牧草種子関係では、夏作の飼料用トウモロコシ及びソルガムなどの飼料用作物種子や野芝種子及び張芝苗などの緑化工事用種子の販売が伸長
- ・ ウイルスフリー苗及び種イモ関係では、サツマイモ苗等の販売が伸長
- ・ 新規にフィリピン所在の子会社(フィリピーナス・カネコ・シーズ・コーポレーション)を連結

花き事業



	16/5月期	17/5月期	増減率
売上高	10,018	9,691	△3.3%
営業利益	214	248	15.7%

【セグメント事業内容】
 家庭園芸愛好家向けに花苗や花き園芸用品、家庭菜園向けの野菜苗等の販売を行っているほか、営利栽培農家向けに花き種苗を自社開発し販売を行っております。

【業績】
 売上高96億91百万円
 前年同期比3.3%減
 営業利益2億48百万円
 前年同期比15.7%増

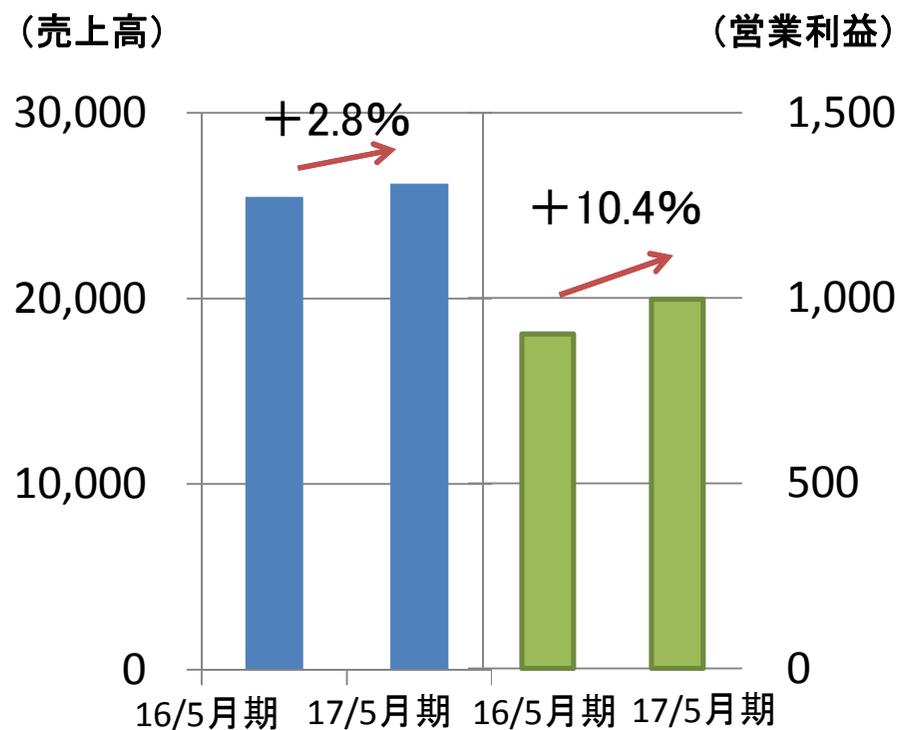
主な売上高減少要因

- ・家庭園芸資材の需要低迷
- ・花苗・野菜苗の春先における販売が低迷

主な営業利益増加要因

- ・自社オリジナル商品の重点販売による採算性向上
- ・販売費及び一般管理費の削減

農材事業



(単位:百万円)

	16/5月期	17/5月期	増減率
売上高	25,476	26,179	2.8%
営業利益	903	996	10.4%

【セグメント事業内容】

農薬の販売を中心に被覆肥料等の販売も行っております。

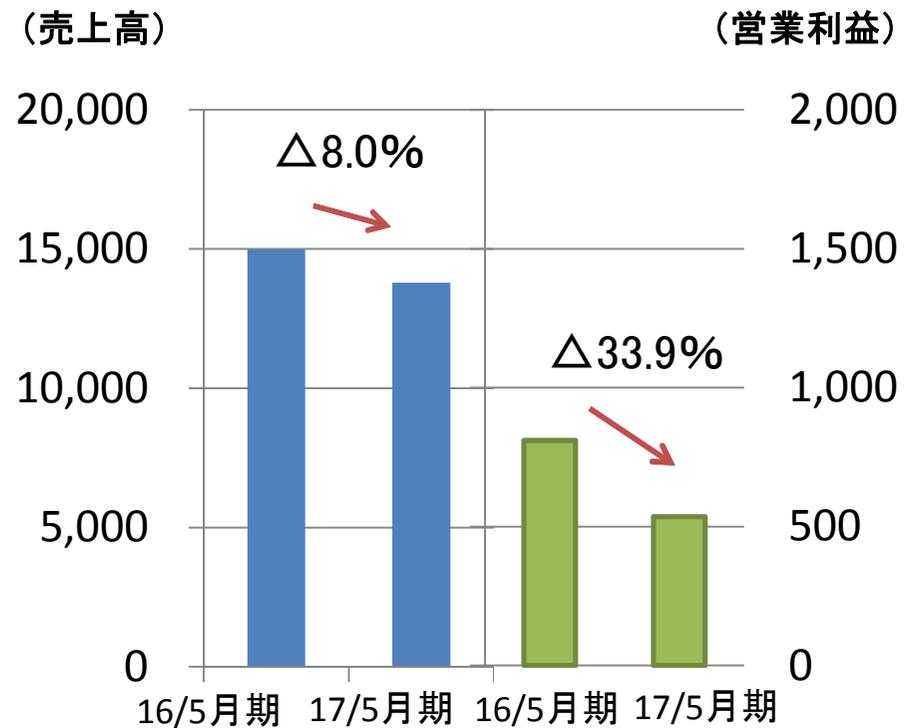
【業績】

売上高261億79百万円
前年同期比2.8%増
営業利益9億96百万円
前年同期比10.4%増

主な増加要因

- ・除草剤の需要増
- ・青果高に伴う農家の防除意欲向上
- ・関東地区を中心に殺虫剤等の販売が伸長
- ・オリジナル被覆肥料ベストマッチと農薬を絡めた企画提案営業の展開を強化

施設材事業



(単位:百万円)

	16/5月期	17/5月期	増減率
売上高	14,982	13,789	△8.0%
営業利益	810	535	△33.9%

【セグメント事業内容】

農業資材を仕入れ販売しているほか、当社独自の養液栽培プラント及び温室を設計・施工し、販売しております。

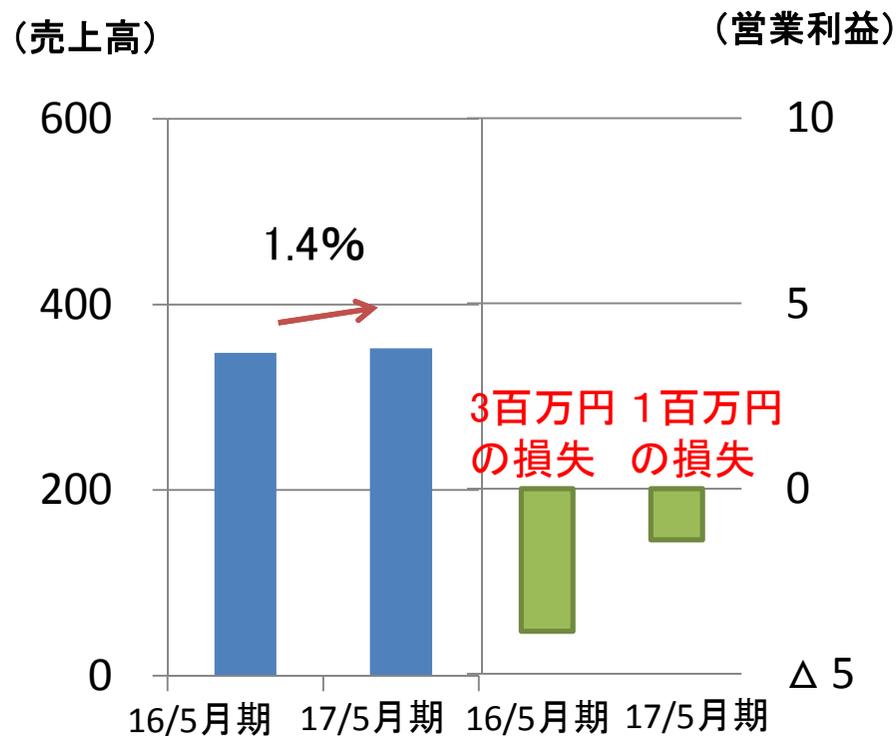
【業績】

売上高は137億89百万円
前年同期比8.0%減
営業利益5億35百万円
前年同期比33.9%減

主な減少要因

平成26年2月の関東地区の大雪で被害を受けた農業用ハウスの復旧事業の反動が予想以上に大きく、減収減益

造園事業



(単位:百万円)

	16/5月期	17/5月期	増減率
売上高	347	352	1.4%
営業利益	△3	△1	—

【セグメント事業内容】

主に群馬県内において、造園工事や法面工事を官公庁及び民間から請け負い、設計・施工管理を行っております。

【業績】

売上高は3億52百万円
前年同期比1.4%の増
営業利益1百万円の損失
前年同期3百万円の損失

主な増加要因

売上高の増加により、損失金額を圧縮

2018年5月期見通し

通期連結業績見通し

(単位:百万円)

	16/5月期	17/5月期	増減率 (%)	18/5月期 計画	増減	増減率 (%)
売上高	58,099	57,848	△0.4	59,500	1,651	2.9
営業利益	2,144	2,015	△6.0	2,050	34	1.7
経常利益	2,281	2,116	△7.2	2,150	33	1.6
親会社株主に帰属 する当期純利益	1,465	1,489	1.6	1,450	△39	△2.6

売上高	以下の増加要因により、売上高595億円で前年同期比2.9%を見込んでおります。 ・種苗事業 野菜種子関係でレタス・スイートコーンの国内販売の増加 輸出で欧米向けカボチャの販売増加 牧草関係で環境に配慮した麦類等の緑肥作物種子の販売増加 ・施設材事業 西日本地区の営業体制を強化することなどにより新規顧客の増加による販売増加
営業利益及び 経常利益	上記売上高の増加などにより、営業利益20億50百万円、経常利益21億50百万円で増益を見込んでおります。
親会社株主に帰属 する当期純利益	前期(17/5月期)に、投資有価証券売却益(90百万円)の計上により嵩上げされた反動により、14億50百万円と減益を見込んでおります。

中期計画と経営戦略

中期計画の進捗状況

中期3か年計画(16年7月公表)

(単位:百万円)

	17/5月期 中期計画	18/5月期 中期計画	19/5月期 中期計画
売上高	58,100	59,500	61,000
営業利益	2,050	2,200	2,350
経常利益	2,200	2,350	2,500
親会社株主に帰属する当期純利益	1,470	1,570	1,670

実績、業績予想等

(単位:百万円)

	17/5月期 実績	18/5月期予想 (17年7月公表)	19/5月期 中期計画
売上高	57,848	59,500	61,000
営業利益	2,015	2,050	2,350
経常利益	2,116	2,150	2,500
親会社株主に帰属する当期純利益	1,489	1,450	1,670

中期計画の進捗状況

重要方針の状況

グローバルビジネスの推進と新たな海外ビジネスの確立

- ・アフリカ向けは、キャベツが新規品目として伸長
- ・欧州向けは、春播きタマネギが好評価で、来期(18/5月期)の売上に期待
- ・北海道農場を開設。北海道だけではなく、欧州・米国など高緯度向けの品種を開発
- ・住友化学株及びシンガポール農食品獣医庁との共同事業、「シンガポール都市型農業プロジェクト」に参画

国内マーケットの競争力強化

- ・北海道・東北・九州地区などの国内マーケットでの競争力強化
上記地区の当期(17/5月期)売上高は、前期(16/5月期)と比べトータル2.5%アップ

18/5月期中期計画と18/5月期予想(17年7月公表)の差異発生要因について

売上高	種苗事業・施設材事業の売上高は中期計画を上回ることを見込んでおりますが、花き事業の売上高が中期計画を下回ると見込まれ、18/5月期予想は、18/5月期中期計画と同額を予想しております。
営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益	花き事業の中期計画未達や施設材事業の売上総利益率が中期計画より低下すると見込んだこと等により、18/5月期予想は、18/5月期中期計画の数値を下回ることを予想しております。

事業環境

農業を取り巻く環境

国内

マイナス要因

食料消費の減少・農家の後継者不足・TPP

プラス要因

国内農業強化のための農政・大規模化・輸出増加

海外

人口増加による食料需要の拡大と生産量の不足

新興国の需要増加や高品質志向

当社グループの戦略

当社グループの経営基本方針

ハイテクと国際化

農業関連の総合企業

当社グループの戦略

ハイテクと国際化・農業関連の総合企業 国内 ①

国内

マイナス要因

食料消費の減少・農家の後継者不足・TPP

プラス要因

国内農業強化のための農政・大規模化・輸出増加



高品質な野菜・牧草・花の種子を開発

養液栽培プラントの開発

高性能で使い易い被覆肥料の開発



高品質・省力化等に対応した新商品・新品種の開発により、国内での販売シェアアップを図る。

当社グループの戦略

ハイテクと国際化・農業関連の総合企業 国内 ②

国内

マイナス要因

食料消費の減少・農家の後継者不足・TPP

プラス要因

国内農業強化のための農政・大規模化・輸出増加



農薬や農業資材販売における高い競争力
と企画提案力



全国の支店網によるきめ細やかなサービス



当社グループの総合力を活かしたトータルサポートサービスの提供等により、国内マーケットでの競争力強化を図る。

当社グループの戦略

ハイテクと国際化・農業関連の総合企業 海外 ①

海外

人口増加による食料需要の拡大と生産量の不足



高収量の野菜・牧草種子を開発し海外へ販売

新興国の需要増加や高品質志向



高品質の野菜・牧草種子を開発し海外へ販売

高収量・高品質等に対応した海外向け新商品・新品種の開発により、海外での販売強化を図る。

当社グループの戦略

ハイテクと国際化・農業関連の総合企業 海外 ②

海外

人口増加による食料需要の拡大と生産量の不足

新興国の需要増加や高品質志向



種子事業の国際展開

野菜・牧草種子の海外新規マーケットの開拓
海外採種地での高品質・低コスト種子生産
種子等の海外生産拠点の拡充によるリスクマネジメントの強化
と、種子のグローバル供給体制の構築

カネコ種苗株式会社概要

会社名	カネコ種苗株式会社
所在地	群馬県前橋市古市町一丁目50番地12
設立	1947年6月
代表者	金子 昌彦
資本金	14億91百万円(2017年5月末現在)
上場	東京証券取引所 市場第一部
発行済株式数	11,772千株(2017年5月末現在)
従業員数	613名(連結対象会社合計 653名) (2017年5月末現在)
グループ会社	4社(連結子会社 3社・非連結子会社 1社) (2017年5月末現在)
問い合わせ先	財務部 専務取締役財務部長 長谷 浩克 E-mail: h-hase@kanekoseeds.jp TEL: 027-251-1619 FAX: 027-290-1056

